

## 授業づくりのポイント シリーズ⑦

### ～板書計画を授業設計の道具としてルーティン化する～

#### <「新大分スタンダード」から>



### 新大分スタンダード

新大分スタンダードで  
アクティブ・ラーニング!

「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力を育成するワンランク上の授業

#### 1 1時間完結型

「主体的な学び」を促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

- \*学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- \*学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- \*追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

#### 2 板書の構造化

\*思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

#### 3 習熟の程度に応じた指導

- \*「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- \*「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫



安心して学べる「学びに向かう学習集団」

#### 4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

「主体的・対話的で深い学び」を創造する学習展開

各教科の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定⇒情報収集⇒整理分析⇒まとめ・発信・交流⇒振り返り・評価」等の学習過程の中で行われる

- \* 問いの発見・解決、自己の考えの形成・表現、思いに基づく構想・創造
- \* 様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

本シリーズ⑥【板書とノートを思考整理の道具として機能的に使う】において、「授業では、児童生徒が、『めあてや課題』を理解して追究し、『まとめや振り返り』によって、どこまで解決できたのか、何を学ぶことができたのか等を板書に位置付け、ノートに書いて自覚させる必要があります。」と述べています。

これを実現するため、実際の授業場面を想定し、予想される児童生徒の反応や提示する資料等を位置付けたものが板書計画です。

板書計画を作成する際に、教材研究は欠かせません。本単元（題材）で付けたい力（指導事項・指導内容）は何かを明確にし、その実現のためにふさわしい言語活動の展開を念頭に考えることが必要です。その言語活動に沿っためあてや課題、学習形態（ペア・グループ活動）や思考ツールの活用等を考えながら、どんな板書にするか計画を立てていくのです。カードや文字や挿絵・資料掲示等を具体的に工夫し、メリハリを持たせた板書をイメージしていくことも大切です。

また、「課題」と「まとめ」が対応して書かれ、どんな方法で課題を解決したのか、また、導入→展開→終末のどの段階でどんな力を付けたのかが分かる1時間の学習過程が可視化できる板書計画にすることが重要です。組織的に授業改善を推進していたために、板書計画を日常的な取組としていくことをお勧めします。

※文部科学省初等中等局国際教育課作成HP「CLARINET」の中で、海外子女教育・帰国児童生徒に対する教育の場における「板書の条件」が次のように述べられています。ユニバーサル・デザインの視点からも大変参考になります。板書計画の作成の際に参考にして下さい。

- 1 授業準備の中で、板書計画も決定しておくこと。  
(どの時点で、何を、どの位置に、どれくらいの大きさで、何色のチョークで書くか等)
- 2 主要発問や学習活動の目標は、必ず板書すること。
- 3 子どもたちがノートを書くことによって、課題の確認・共有・焦点化などの的確な学習活動ができるものを板書すること
- 4 子どもたちが板書する機会も設けること。

【板書計画を作成する際に、最初に確認しておくべきこと】

- 主眼、ねらいが、＜学習内容＞＜学習活動＞＜付けたい力＞で構造化されている。
- 主眼の＜付けたい力＞と評価規準に整合性がある。
- 「めあて・振り返り」「課題・まとめ」が対応している。

＜好事例から＞

【小学校第6学年 国語】 本時の学習の要点が分かる板書計画

|   |  |  |  |  |
|---|--|--|--|--|
| 2校時   | 6年   | 国語   | 授業形態   | 評価規準【観点】<br>文章を比べて読み、書き方の特徴を捉えたりうえで話し合っている。<br>(C-オ) 【読む能力】      |
| 単元名「私の大切な一冊」の本をしようかいしよう。(題材)                                | 2/6時間  | 主眼 梨木さんと若田さんの文章を比べて読み、『書きぶり』で気付いたことを出し合うことを通して、二つの文章の特徴についてまとめることができる。           |  |  |
| T2 (5分)<br>ふりかえり<br>わかたこと、むずかしいこと、これかたかたこと、をまよまよとる。         | T1 (10分)<br>まとめ<br>みつけた特徴を出し合う。  | T1T2 (10分)   | T1 (15分)<br>二つの文章を読み比べる。                           | T1 (5分)<br>めあてを確認する。   |
| ふりかえり<br>要約や引用を使って「大切な一冊」の紹介を書きいけよ。<br>自分の紹介文に記入していきたい。     | 梨木さん<br>若田さん<br>本の紹介文を書くために二つの文章を読み、特徴をまとめよう。<br>めあて<br>本文には、どんな書きぶりをすればよいか。 | 1班<br>2班<br>3班<br>グループごとに話し合い、書きぶりで気付いたことを同じもの違う視点でまとめ、板書に位置づける。その後全員で特徴としてまとめる。 | 二つの文章を音読した後、個人で付箋に書きぶりを挙げて、それをクラスで出し、自分の考えを持つようする。 | 梨木さんと若田さんの文章を比べて読み、書きぶりの特徴を見つけていくことをめあてする。<br>梨木さんの文章<br>若田さんの文章 |
| <b>本時の要点</b>  |  |  |  |  |
| 中学との関連：(中1 ブックトークしよう) 紹介する本から必要な情報を読み取り、自分の物の見方や考え方を広げる。読む力 |  |  |  |  |

○本時の学習の要点（本時…本文を引用する、内容を要約する）を明確にして（色を変える、強調する等）位置づけるようにする。その要点を活用したまとめや振り返りを行うことで学習内容の定着につながる。

【中学校第2学年 社会】

授業内容を思考過程に沿って、構造的に整理されている板書計画

|           |   |                         |       |
|-----------|---|-------------------------|-------|
| 単元(題材)    | 九州地方の人々の営み  | 時間                      | 2/5時間 |
| 主眼        | 九州の産業の大きな特色を資料の情報と地理的条件と関連付けて考えることを通して、自然環境に適した産業の特色について考えることができる。  |                         |       |
| 評価規準【観点】  | 教科書や資料集等の資料から情報を適切に選択し、身近な地域の諸事象を地域の環境条件に着目して考えることができる。(社会的な思考・判断・表現)   |                         |       |
| めあて       | 九州の産業について、理解しよう   |                         |       |
| 作業①       | 九州の白地図に産業の特色を記入しよう<br>・車・鉄鋼・牛・豚・さつまいも・ピーマン・きゅうり   |                         |       |
| 班活動       | 自分の白地図をお互いに確認をする。   |                         |       |
| 課題        | なぜ、同じ九州でも地域によって産業がことなるのだろうか   |                         |       |
| 作業②       | 情報を二次元表に整理しよう   |                         |       |
| 工業        | さかんな県 福岡県 大分県   | 地理的条件 平野 中国に近い 昔、炭田があった |       |
| 畜産業       | 宮崎県 鹿児島県 熊本県  | シラス台地 火山                |       |
| さつまいも     | 鹿児島県  | シラス台地                   |       |
| ピーマン・きゅうり | 宮崎県   | 温暖 平野がひろがる              |       |
| まとめ       | 九州北部は中国からの鉄鉱石や近くの炭田から資源が手に入りやすく、工業が発展していたが、エネルギー革命のため衰退し、機械工業が中心となった。また、九州の南部ではシラス台地により稲作に向かないため、畑作や畜産業が盛んになった。 |                         |       |
| 振り返り      | 地理的条件と産業とをつないで特色をまとめる。  |                         |       |
| 授業の流れ     | ○復習(一斉指導) (5分) ○作業、課題把握(グループ活動) (15分) ○自己解決、交流(グループ活動) (20分) ○まとめ (5分) ○振り返り (5分)                               |                         |       |

○語や文、文章の羅列のみではなく、資料等を活用して見やすく、メリハリのある板書にする。授業の流れや児童生徒の思考過程等に沿って構造的にまとめることで、児童生徒の思考の道筋が明確になり、理解が促進される。  
※板書計画を作成して実践した授業の実際を写真にして記録として残し共有することをお勧めします。研修等で活用しながら、授業改善に活用できます。